

# パオちゃん's EYE

2023年7月1日 発行 No.76

## 新見市哲多町の荒戸山のかんらん岩

地球の表面から数10km～400kmの深さの領域は上部マントルといい、主にかんらん岩という、密度が約 $3.5\text{ g/cm}^3$ に達する黄緑色やくすんだ緑色の重い岩石でできています。そのような地下深部から隆起作用で地表へ現れたかんらん岩の大部分は変成し、ち密になったり黒っぽくなったりして、上部マントルに存在していたままの状態のかんらん岩の姿はなかなか見られません。しかし、地下約300kmの上部マントルで発生したマグマが地表付近に急上昇して冷えて固まってできたアルカリ玄武岩という岩石の中には、上部マントルに存在していた状態のままのかんらん岩が破片で見られることがあります。新見市哲多町の荒戸山にはこのようなかんらん岩があります。



荒戸山



荒戸山のアルカリ玄武岩（黒）中のかんらん岩（黄緑）

荒戸山は数100万年前のアルカリ玄武岩からなる山で、このアルカリ玄武岩には数cm以下の黄緑色やくすんだ緑色の上部マントルのかんらん岩の破片が含まれ、これをよく見ると1～2mm程度の黄緑色のかんらん石、鮮緑色の透輝石、暗褐色の頑火輝石などの粒が集まっています。そのほかにこのアルカリ玄武岩には、同じく上部マントルにあった約1cm以上の大きな黒っぽい透輝石や頑火輝石の輝石類の破片も見られ、このようなかんらん岩や輝石類の破片をマントル物質といいます。荒戸山のようなマントル物質を伴うアルカリ玄武岩は日本列島では島根県隠岐島や佐賀県高島など、日本海地域のところどころに見られます。

武智泰史(地学担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

### 倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat2@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには  
いろんな情報がいっぱい♪  
「倉敷市立自然史博物館」で  
検索してみよう! パオより

